

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「次代の地域社会における良識ある担い手」を育成するため、生徒一人ひとりに次の４つの力を育み、生徒の自己実現を支援する総合学科高校をめざす。
1 自らが学び、考え、表現し、主体的に行動できる力
2 将来の目標を具体的に設定し、それに向かって努力する力
3 人や地域とのつながりを大切にし、地域社会の発展に貢献できる力
4 豊かな人権感覚を身に付け、より良い人間関係を築くことのできる力

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成
(1) 生徒が授業内容に興味・関心を持ち、「わかる」授業づくりを進めるとともに、基礎学力を定着させ、自ら学習する態度を身に付けさせる。また、観点別評価を取り入れた授業展開を実施する中で、１人１台タブレットの積極的な活用を図る。
ア 教務部と首席を核に、公開授業、研究授業及び授業アンケート等を活用した授業改善に組織的に取り組むとともに、観点別評価を適切に実施する。
※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業はわかりやすい」の肯定率を令和６年度で85%以上。(R 1 74.6%、R 2 76.9%、R 3 79.4%)
学校教育自己診断（生徒）の「学習の評価について納得できる」の肯定率を令和６年度で85%以上。(R 1 72.0%、R 2 81.3%、R 3 80.5%)
イ 基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざし授業の工夫・改善を図るとともに、１人１台タブレットの適切な活用に取り組み、定期的な校内研修で課題の改善を図る。
※ 本校独自のアンケートで、「知識や理解力が身についた」の肯定率を令和６年度で90%以上（R 1 73%、R 2 87.7%、R 3 84.6%）。
学校教育自己診断（生徒）に新設する「授業においてタブレットを活用している」の肯定率を令和６年度で85%以上。
(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、自分で調べ、考え、表現・発表する力を育てる授業を行う。
ア 「産業社会と人間」「総合的な探求の時間（GS）」の取組みと各教科の指導を連携させて、グループワーク等の協同学習を推進し、生徒の学習活動を充実させることにより、生徒が自ら学習する態度を育む。
※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業では、自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率が令和６年度で80%以上。(R 1 64.7%、R 2 71.8%、R 3 67.6%)
※ 本校独自のアンケートで、「考える力や表現する力が身についた」の肯定率を令和６年度で90%以上。(R 1 73%、R 2 88.7%、R 3 83.8%)
イ GSの取組みと教科学習の中で、発表する機会を設け、１年時からの段階的な実施により、生徒のプレゼンテーション能力を高め、課題研究の発表会の充実を図る。
※ 本校独自のアンケートで、「プレゼンテーション能力が身についた」の肯定率を令和６年度で85%以上。(R 1 64%、R 2 81.8%、R 3 79.8%)
2 将来の目標に向かって努力する生徒の育成
(1) 理解・納得に基づく生活習慣の形成及び規範意識の醸成とともに、高校生として望ましい態度とマナーを育成する。
ア 遅刻等の状況を改善するとともに、授業規律を確立させる。
※ 遅刻件数を令和６年度には5,000回以下とし、それ以降も毎年減少させる。(R 1 5,985回、R 2 6,834回、R 3 6,880回)
※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業では騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」の肯定率が令和６年度で50%以上。(R 1 30.6%、R 2 36.2%、R 3 34.9%)
イ 「ダメなものはダメ」の指導方針を教職員全体で共有しつつ、画一的に罰則を与える指導ではなく、ダメな理由を適切に理解させられるよう、個々の生徒の課題を踏まえ、生徒や保護者の思いをくみ取った、対話を重視した生徒指導を行う。
※ 学校教育自己診断（生徒）の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率が令和６年度で85%以上（R 1 70.0%、R 2 81.6%、R 3 75.6%）、「生活規律や学習規律などの基本的生活習慣の確立に力を入れている」の肯定率が令和６年度で80%以上。(R 1 63.2%、R 2 76.1%、R 3 72.4%)
※ 学校教育自己診断（生徒）「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率が令和６年度で70%以上（R 1 46.5%、R 2 57.7%、R 3 57.8%）
(2) 修正した進路指導計画に基づき、１年次からのキャリア教育の充実を図るとともに、卒業後を見据えた進路意識を高めること等を通して自己実現を支援する。
ア 「産業社会と人間」「総合的な探求の時間（GS）」の取組み等を通して、進路目標を具体的に果たせるとともに、自己の努力目標を明確にさせる。
※ 学校教育自己診断（生徒）の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率が令和６年度で90%以上。(R 1 81.1%、R 2 85.2%、R 3 86.8%)
※ 本校独自で実施する進路実績満足度及び進路決定率（３月末）とも毎年90%以上。（「満足度」R 1 91.8%、R 2 91.4%、R 3 94.8%「12月末現在決定率」R 1 85.8%、R 2 80.6%、R 3 89.7%）
イ 資格取得の支援やインターンシップの内容充実に努めるとともに、進学希望生徒の増加を踏まえ、計画的講習など適切な学習機会の提供を行う。
※ 「漢検」等の資格取得者：合格率を維持（R 2 67%、R 3 67.0%）、インターンシップ単位認定者：20名程度を維持。(R 1 15名、R 2 実施できず、R 3 実施できず)
3 安全安心で魅力ある学校づくり
(1) 生徒一人ひとりが自らの課題に向き合い課題を解決しようとする意欲を育み、他者を大事にして生徒同士がつながる取組みを推進する。
ア 生徒の学校生活満足度を高め、自分自身も他者も大事にしていく意識を育む集団づくりの取組みを一層推進する。
※ 学校教育自己診断（生徒）の「伯太高校に行くのが楽しい」の肯定率が令和６年度で70%以上、「自分の学級は楽しい」が80%以上。（「高校に行くのが楽しい」R 1 63.1%、R 2 65.0%、R 3 59.5%、「学級は楽しい」R 1 72.2%、R 2 76.9%、R 3 67.2%）
イ 校内の環境及び施設設備を充実させ、部活動を活性化させる。
※ 部活動の加入率を令和６年度で35%以上。(R 1 33.4%、R 2 33.4%、R 3 31.1%)
(2) あらゆる教育活動を通じて、生徒の人権を大切にした指導を徹底するとともに、人権教育を計画的・総合的に推進する。
ア 人権計画の見直しを図り、人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、人権HRの内容の見直し、充実により様々な人権問題（子ども、同和問題、男女平等、障がい等）の解決につながる教育活動を推進する。
※ 学校教育自己診断（生徒）の「伯太高校の人権教育は、あなたが学びたいことに応えている」の肯定率が令和６年度で80%以上。(R 1 65.1%、R 2 73.5%、R 3 69.2%)
※ 学校教育自己診断（生徒）の「さまざまな立場の人や自分たちの人権について学ぶ機会がある」の肯定率が令和６年度で90%以上。(R 1 76.8%、R 2 85.9%、R 3 83.6%)
イ 生徒の個別の状況を把握、共有し、個に応じた適切な指導を、組織的にかつカウンセリングマインドをもって行い、SCやSSWの活用及び外部連携を図ることにより、生徒の状況の改善、学校生活の安定に努める。
(3) 地域等とつながる取組みを進め、地域社会に貢献する意識を醸成する。特に、キャリア教育の充実のために、地域の企業の人事や専門学校、大学、短期大学の担当者および卒業生等の話を聞く機会を多く設定する。また、系列の充実に向け、地域の専門学校や大学、保育所等の外部施設等との連携による授業を令和６年度に確立させるため、協議を進めるとともに、試行的に様々な授業等を実施していく。
ア GSやHRの時間を活用し、人事担当者、広報の担当者と卒業生等の話を実際に聞く機会を多数設け、事前事後指導を含めキャリア教育を深めるとともに、地域に貢献する姿勢を育む。
イ 系列の充実を図るため、外部講師の活用だけでなく、地元和泉市や近隣の学校園等と連携する取組みや地域の保育所や介護施設、小学校などとの連携した授業や活動を充実させるための取組みを進める。
※ 地域のあいさつ運動・清掃活動、保育所交流等の継続、令和６年度を見据えた外部施設等との連携協議を進め、学習活動の充実を図る。
4 教職員の組織的・継続的な人材育成等
(1) 教職員の組織的・継続的な育成を行う。
ア 教職経験年数の少ない教職員について、研究授業及び校内研修の機会や分掌業務等のOJTを基本に、全教員がかかわる形で育成する。
※ 学校教育自己診断（教職員）の「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」の肯定率が令和６年度で75%以上。(R 1 52.9%、R 2 47.8%、R 3 69.3%)
イ 概ね10年までの教職経験年数の教職員を学校組織の中核として配置し、課題解決を意識した業務遂行等を通して、ミドルリーダーを育成する。
(2) 教職員の働き方を改革する。
ア 教職員の長時間労働を改善するため、業務全般を見直し、分掌業務の改善を図るとともに、教職員に業務の工夫・改善を促す。
イ 大阪府部活動の在り方に関する方針に基づき、適切な部活動の実施を徹底し、部活動による長時間勤務の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和４年１２月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○学習指導に関して 努力を認めてくれる、評価に納得できる、質問しやすいなどの項目の肯定率は横ばいであるが、「授業はわかりやすい」の項目は４％ほど低下。学年進行ごとに肯定率が低下し、特に３年生は低くなっている。生徒との関係性に起因するの か、選択科目の学習内容に起因するの か分析が必要である。観点別評価の１年生については、評価の肯定率が８３％となっており、さらなる工夫、改善が必要である。 ○生徒指導等に関して 生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立については、肯定率が６８.６％と前年比－４ポイント、指導に納得できるという肯定率は５２.８％と前年比－５ポイント。学校・学級が楽しいと答える生徒は前年度より６ポイント増加した。生徒層が変化しており、大きく反発しない生徒への指導、支援の在り方を工夫、徹底していく必要がある。 ○人権教育に関して 「人権について学ぶ機会がある」が８４.２％、「学びたいことに答えている」も７４.０ポイントと回復。実施時期の変更によるものと思われる。	第１回（令和４年６月１１日） ○学校全般について ・授業を見学した様子からは、年々落ち着いて学習できているように感じている。遅刻や欠席についてはどうか。⇒ 現状は遅刻は減少傾向、欠席は特に１年生に多い傾向がある。 ○中学校での指導について ・中学卒業時における私立単位制への進学希望も増えるなど、高校進学の意欲面などどのような指導が高校生活につながりますか。⇒本校はキャリア教育の充実を図り、それを周知していこうと思っています。高校卒業資格だけでなく、自身の将来をきちんと考えていけるようにしたい。また、自分の判断のみで行動する生徒が多いので、他者から見られた時にどう思われるかを意識させてほしい。 第２回（令和４年１１月５日） ○マナー教育について ・交通マナーなどが悪く、近くの交差点にも教員が立っているということだが、最近は高校生に限らず、自分事として捉えられなくなってきたので、啓発だけでは難しいと思う。 ⇒ 交通マナーについては、電話をいただくことがあるが、近隣の方からは、生徒の様子が良くなったねと声をかけられることも増えてきた。 ○進路指導について ・キャリア教育に力を入れていて、良いことだと思う。生徒へは専門学校進学より就職をもっと勧めてはどうか。⇒ 様々な説明は行っているが、強制は困難。また、進学と異なり、一つの会社に多数が就職できるわけではないので、難しい面もある。 第３回（令和５年２月２５日） ○タブレットの活用、プレゼンテーションの肯定率について ・タブレットの活用率が１年生で特に低い理由は何かあるか。⇒ １年生のみ教室据え置き の充電ボックスがないことが理由であり、現在対応中。 ・プレゼンテーションについては、タブレット活用では、満足感は低い。以前のように紙媒体で、書く、作るということには意味があるので、やり方の工夫が必要である。 ○キャリア教育について ・現状の取組は評価できる。ただ、これだけ実施しているにもかかわらず、否定率が固定的に１０％程度あるが、この点はどうかとらえているか。⇒ ちょうど未定率と毎年同じ程度の否定率であることから、進路を全く考えられない生徒には、さらなる取り組みが常用である可能性もあり、分析する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R３年度値〕	自己評価
1 「確かな学力」の育成	（１）「わかる」授業づくりと基礎学力の育成 ア 組織的な授業改善と観点別評価の試行 イ 基礎学力の定着と学習意欲の向上 （２）「主体的・対話的で深い学び」の推進 ア 協同学習の効果的活用と充実 イ 発表機会の充実、スキルの向上	（１） ア・研究授業・公開授業の積極的な実施と観点別評価の適切な実施に加え、教員研修・協議による確実な授業改善及び観点別評価方法の充実及び徹底を図る。 ・「産業社会と人間」「総合的な探求の時間」（G S）の取組みと各教科の授業方法の連動により、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を推進する。 イ・朝学習とG Sの連動により、学習意欲の向上と、基礎学力の定着、キャリアパスポートの運用を図る。 ・観点別評価における授業改革と併せ、タブレットの授業内での活用を推進する。 （２） ア・G Sと連動させ、グループワーク等の協同学習の効果的活用と充実を図る。 イ・G Sにおけるキャリア教育を充実させるため、生徒の発表機会を計画的に実施し、プレゼンテーション能力の育成を図る。	（１） ア・研究授業等15回以上[15回] ・学校教育自己診断(生徒)「授業はわかりやすい」の肯定率82%以上[79.4%] ・学校教育自己診断(生徒)「学習の評価について納得できる」の肯定率82%以上[80.5%] ・授業力向上・授業改善及び観点別評価のための研修等３回[３回] イ・独自アンケート「知識・技能が身についた」の肯定率88%以上[３年生84.6%] ・学校教育自己診断(生徒)に新設する「授業においてタブレットを活用している」の肯定率60%以上 イ・独自アンケート「プレゼンテーション能力が身についた」の肯定率83%以上[３年生79.8%]	（１） ア．研究授業は16回実施、研修は３回実施した（３学期に４回めを予定）。肯定率は75.5％と下降、１年生は目標値を上回っているが、２、３年生が大きく下降。選択科目に課題あり。（△） イ．肯定率は74.4％。今年の３年生については大きく低下。タブレット活用は３年生75.4％、２年生66.3％、１年生が28.4％、全体で54.9％。１年生は充電の関係で活用が難しい。（△） （２） ア．「機会がある」の肯定率は65.8％、２、３年生では選択科目で実際に多く発表させているが65％程度、１年生67％、観点別評価のため、軽い発表が多いことによると思われる。「身についた」の肯定率は69.7％と目標に届かず。（△） イ．肯定率は 60.8％。（△） ※いずれも、３年生ではタブレットを利用した形式に変更しているため、タブレットを十分に活用しきれていなかったことに起因すると思われる。
2 将来の目標に向かって努力する生徒の育成	（１）理解納得に基づく生活習慣の形成、規範意識の醸成に係る取組みの推進 ア 遅刻指導の工夫と授業規律の確立 イ 生徒理解にたった個に応じた生徒指導の充実 （２）１年生からのキャリア教育の充実 ア 進路目標の早期設定の取組み イ 資格取得支援とインターンシップ充実、進学向け学習機会の提供	（１） ア・朝学習を活用して目標設定、その振り返りを習慣化させることで、基本的な生活習慣について生徒の認識を高め、遅刻件数の減少や規範意識の醸成をめざす。 ・授業の大切さやともに学ぶ意識を醸成することで、授業中の私語等を減らし、授業規律を確立させる。 イ・画一的罰則によらず、生徒の状況把握、理解、共有により、生徒や保護者の思いをくみ取る生徒指導をより進めていく。 （２） ア・修正した進路指導計画に基づき、ガイダンス機能を一新、充実させ、企業、専門学校、大学、短期大学等、外部の方々と卒業生を活用した学習の機会と事前事後指導を基本に、将来の就労を意識した具体的な進路目標をもたせ、継続して努力する力を育てる。 イ・資格取得のための取組みを充実させる。 ・インターンシップの内容を充実させる。 ・進学のための指導・取組みについて、講習等を組織的、継続的に実施する。 ・勉強の習慣づけや進学に向けた講習（以下進学講習という）を学校を利用して実施することで、内容充実を図り、参加者の増をめざす。	（１） ア・遅刻件数5,500回以下[6,880回] ・学校教育自己診断(生徒)「騒ぐ・私語する生徒なし」の肯定率40%以上[34.9%] ・学校教育自己診断(生徒)「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」の肯定率80%以上[72.4%] イ・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率85%以上[75.6%] ・学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率60%以上[57.8%] （２） ア・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方を考える機会がある」の肯定率88%以上[86.8%] ・進路実績満足度90%以上[94.8%] ・進路決定率90%以上[89.7%] イ・「漢検」等の資格試験の合格率[67.0%]を維持 ・インターンシップ認定者20名程度を維持 ・進学講習の生徒満足度95%以上、参加者20名以上[100%、18名]	（１） ア．遅刻件数は２学期末で５、931回(前年同時期+432)。肯定率は「私語なし」が35.4％と微増、「習慣の確立」が68.6％と微減し、目標に届かず。生徒の状況が変化し、生徒の状況と指導がフィットしていない。工夫、改善を図る。（△） イ．肯定率は「相談に」が77.5％微増、「納得できる」が52.8％微減と目標にとどかず。生徒の状況と指導がフィットせず、工夫、改善が必要。（△） （２） ア．肯定率は87.2％、満足度87.5％とほぼ目標達成（○）。決定率は86.9％、コロナの影響もあり、現在も対応中。（△） イ．資格合格率は62.0％、インターンシップはコロナで未実施。進学講習は、低調、参加者１０名、満足度 80％(△)

府立伯太高等学校

3 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 生徒が他者を大事にして生徒同士がつながる取組み ア HR活動及び学校行事の充実 イ 部活動の活性化	(1) ア・学年や学級を基本に他者を大事にして、生徒たちがつながることを意識した活動を工夫するとともに、教員の適切な声掛けにより、その充実を図る。 ・学校行事において、生徒が企画し運営するなど、生徒のリーダーシップを育成できるよう、内容や実施方法を工夫し充実させる。 イ・校内環境や施設を整備し、部活動の活動や発表の場を充実させ、体験入部やクラブ発表会を活用して部活動加入率の向上をめざす。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「高校が楽しい」の肯定率68%以上[59.5%]、「学級は楽しい」の肯定率80%以上[67.2%] ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭は楽しい」の肯定率85%以上[83.0%]、「体育祭は楽しい」の肯定率85%以上[75.6%] イ・部活動加入率35%以上[31.1%]	(1) ア.「高校が楽しい」は64.0%、「学級は楽しい」が76.2%と上昇したが、やや目標に届かず。(△) 行事肯定率は文化祭88.8%、体育祭81.2%と回復。(○) イ. 部活動加入率は31.3%。体験入部など働きかけを強めているが、経済的な理由や意欲の面で伸び悩んでいる。(△) (2) ア. 人権の肯定率は「学びたいこと」が74.0%、「機会がある」が84.2%と回復はしたが、やや目標に届かず。次年度も見直しを継続。(○) イ. S C、S S Wについては計画的、継続的に活用できた。研修の場でも活用でき、ケースの検討も実施できた。今後とも継続していく。(○)
	(2) 人権教育の推進 ア 様々な人権課題の解決を推進 イ 個別の支援が必要な生徒への対応 (3) 地域等とつながる取組み ア 地域等との連携 イ 外部連携を活用した選択科目の充実	(2) ア・人権教育計画の見直しを図り、様々な人権問題(子ども、同和問題、男女平等、障がい等)の解決につながる教育活動を推進する。 イ・人権上配慮の必要な生徒等について、週1回の会議及び対応検討会議(不定期)を活用し、S CやS S W、外部機関との連携を組織的に行い、個別の支援を適切に行う。また、ヤングケアラーの可能性のある生徒の状況把握を適切に行い、教育活動における必要な支援を図るとともにS CやS S W との連携を行う。 (3) ア・現行の取組みを継続し、中学校との連携を充実させるとともに、企業や専門学校等との連携によりキャリア教育と地域貢献の意識の醸成を図る。 イ・系列学習の充実のため、令和6年度に向けた選択科目の内容充実のための専門学校や短期大学、保育所等の地域施設との、協議、連携を進め、連携授業の試行を実施し、授業の充実を図る。	(2) ア・学校教育自己診断(生徒)「伯太高校の人権教育は、あなたが学びたいことに応えている」の肯定率75%以上[69.2%] ・学校教育自己診断(生徒)「さまざまな立場の人や自分たちの人権について学ぶ機会がある」の肯定率88%以上[83.6%] イ・生徒情報の把握、共有及び個別の支援計画等の検討を組織的に行う。S CやS S Wを活用し、具体的な対応により状況を改善する。また、ケースについて研修を実施し、共有を図る。 (3) ア・地域、中学校等との連携行事への参加、学校独自の地域清掃活動等の実施、地域を活用した防災教育の実施。 ・企業、学校を招聘したキャリア教育の充実(1, 2年生各8時間以上) イ・地域、保育所等の外部施設、小学校、専門学校や大学と連携した取組みの授業への活用。外部講師の活用30時間以上	(3) ア. 連携行事等はほぼ実施できた。外部を招聘したキャリア教育は1年生8時間、2年生は14時間実施。(○) イ. 外部講師の活用はキャリア教育、H Rを除き40時間。(○)
4 教職員の育成等	(1) 組織的・継続的な育成 ア 教職経験の少ない教職員の育成 イ ミドルリーダーの育成 (2) 働き方の改革 ア 業務の工夫・改善 イ 部活動の適正な実施の徹底	(1) ア・ミドルリーダーに教員研修を企画させ、研修内容に合わせた授業研究や分掌業務のO J Tを全体で進める。特に経験の少ない教員については、全教員がかかわる機会を設定し、教師力を総合的に高めるとともに小集団の組織を活用した育成を図る。 イ・教職経験年数が10年までの教員を学校組織の中核として配置し、振り返りや協議の場を定期的に設定し育成を図る。 (2) ア・会議の整理、分掌業務のスリム化と効率的な引継ぎの活用等、工夫・改善を促す。 イ・部活動の活動計画の徹底を図る。	(1) ア・年10回の教員研修の実施[10回] ・学校教育自己診断(教職員)「経験少ない教職員を育成」の肯定率70%以上[69.3%] イ・首席、分掌長や学年主任及びその候補を継続的に育成 (2) ア・委員会、分掌業務等の見直し、職員会議等の会議の回数の適正化 ・分掌業務の引継ぎの効率化、教材等の共有化 ・時間外在校時間が長い教職員への指導 イ・部活動の活動計画の遵守・徹底 ・活動報告書に基づく指導	(1) ア. 研修は10回実施(内2回は3学期実施予定)、肯定率は77.8%と達成。少人数チームでの活動や複数での丁寧な多対応の効果と思われる。(○) イ. 個別面談などを中心に育成を図っている。複数の分掌長の交代。(○) (2) ア. 委員会、職員会議など会議数の精選や、部活動による時間外については声かけを行い、一部土日のクラブをさせないなどの対応により、80時間越えは2学期末で、昨年度11名から7名に減少。(○)